

硬貨

貴金属が貨幣として使用される以前は、ウシ、ウマ、ヒツジなどの家畜が資産や財産そのものでした。ラテン語で貨幣を意味する

「ペクニア」は、家畜という意味の「ペクス」からきているともいわれています。コインは、重さを量った金属の塊にその重さを証明する印を証明する印を刻んだもので、紀元前7世紀にリディア王国（現在のトルコ）で作られた、金

と銀の自然合金で作られたエレクトロン貨が世界最古のものとされています。コインは、持ち運びしやすく耐久性があり、富としても蓄えることができることから、次第に貨幣を発行し、流通させることが地域の主権を主張するものとなっていきます。英語でウシを表すキャトルは、「財産としての家畜」がもともとの意味で、capital（資本）と同じ語源をもちます。

古代ギリシャのトリオボル銀貨などウシを刻んだコインが多く見られるのは、そうした理由によるものでしょう。

発行し、流通させることが地域の主権を主張することにつながる切手は、コインと共通した特徴を持ちます。そのためか、切手の図案にコインを採用する例は多く見られ、そこにはウシが描かれた牛貨が見られます。

欧州地域



ガーンジー島 1979年 13×3・8×12・5ペンス×15シート〔×0.7〕



イタリア 1933年 50フェンテシ



ギリシャ 1974年 2.50ドラ



ブルガリア 1933年 1ストイナ

アフリカ地域



マリ 1975年 190CFAフラン